

# 北海道大学第一農場の鳥類

藤巻裕蔵\*

The avifauna in the Farm of the Hokkaido University, Sapporo

By Yuzo FUJIMAKI\*

## はじめに

北大農学部付属第一農場（以上農場と略す）は札幌市のほぼ中央にあるが、ここには畑地のほかにいくつかの小林地があり、札幌付近に生息する鳥類の多くが見られる。

1957～1961の各年に農場の鳥類の観察を行なったが、ここに鳥類目録と繁殖期の鳥相について報告する。

なお鳥類目録の作成にあたり、北海道立林業試験場の上条一昭氏の観察記録（1951, 1952年）も使用した。また1959, 1960の両年については北海道大学農学部応用動物学教室の石城謙吉氏の観察記録を参考資料とした。貴重な資料をお貸し下さった両氏にお礼申し上げる。

## 観察場所

観察場所は、農場の試験ほ場と果樹園とを除いた部分および恵迪寮裏の草地と林で、その面積はやく40haである（第1図）。

農場の東側は大学構内、南と西側は住宅地、北側は畑地で、南側を除いては小川で区切られている。観察場所の北やく1/3は牧草地で、その南は水田、畑である。牧草地にはオーチャードグラス、チモシー、レッドクローバーが多い。これらは7月初旬に刈り取られ、牧草地の一部には馬が放牧される。畑のおもな作物はエンバク、コムギ、バレイショ、ビートである。

農場にはこのほか面積やく0.5～2haの林が3か所ある。これらと寮裏の林には、喬木ではおもにハンノキ、ヨーロッパクロヤマナラシ、ドロノキ、ハルニレがあり、林床にはクマイザサ、オオハナウド、オオバナノエンレイソウ、ウバユリなどがある。また畑や牧草地の境界にはノイバラ、ニワトコなどの灌木が見られ、川の一部は湿地となり、キタヨシが群生している。

## 観察方法

観察は随時行ない、飛来した種類を記録した。しかし、繁殖期における鳥類の出現状況を見るために1958, 1961の両年の4～7月には、1～2日おきに午前6～8時の間やく1時間農場をまわって観察を行なった。さらに1961年の5月には個体数も記録した。種類の識別は8倍双眼鏡によって確認するか、または鳴き声によった。また繁殖の確認は巣の発見によるか、餌を運ぶ親鳥の観察によった。

---

\*北海道立林業試験場 Hokkaido Forest Experiment Station, Bibai, Hokkaido

[北海道立林業試験場報告 Bulletin of the Hokkaido Forest Experiment Station, No. 5, June, 1967]

第 1 表 農場の鳥類目録

Table 1 A list of the birds observed in the Farm of the Hokkaido University during 1951–1952 and 1957–1961

Corvidae カラス科	
<i>Corvus leuillantii japonensis</i> BONAPARTE	ハシブトガラス
<i>Corvus corone orientalis</i> EVERS MAN	ハシボソガラス
<i>Garrulus glandarius pallidifrons</i> KURODA	ミヤマカケス
Sturnidae ムクドリ科	
<i>Sturnus cineraceus</i> TEMMINCK	ムクドリ
<i>Sturnia sturnina philippensis</i> (FORSTER)	コムクドリ
Ploceidae キンバラ科	
<i>Passer montanus kaibatoii</i> MUNSTERHJELM	カラフトスズメ
Frigillidae アトリ科	
<i>Coccothraustes coccothraustes japonicus</i> TEMMINCK & SCHLEGEL	シメ
<i>Eophona personata personata</i> (TEMMINCK & SCHLEGEL)	イカル
<i>Chloris sinica sitchitoensis</i> MOMIYAMA	カラフトカワラヒワ
<i>Uragus sibiricus sanguinolentus</i> (TEMMINCK & SCHLEGEL)	ベニマシコ
<i>Pyrrhula pyrrhula griseiventris</i> LAFRESNAYE	ウソ
<i>Loxia curvirostra japonica</i> RIDGWAY	イスカ
<i>Fringilla montifringilla</i> LINNÉ	アトリ
<i>Emberiza aureola ornata</i> SHULPIN	シマアオジ
<i>Emberiza spodocephala personata</i> TEMMINCK	アオジ
<i>Emberiza fucata fucata</i> PALLAS	ホオアカ
<i>Emberiza rustica latifascia</i> PORTENKO	カシラダカ
Alaudidae ヒバリ科	
<i>Alauda arvensis japonica</i> TEMMINCK & SCHLEGEL	ヒバリ
Motacillidae セキレイ科	
<i>Anthus hodgsoni hodgsoni</i> RICHMOND	ビンズイ
<i>Motacilla alba lugens</i> GLOGER	ハクセキレイ
<i>Motacilla grandis</i> SHARPE	セグロセキレイ
Certhiidae キバシリ科	
<i>Certhia familiaris orientalis</i> DOMANIEWSKI	キタキバシリ
Sittidae ゴジュウカラ科	
<i>Sitta europeae baikalensis</i> TACZANOWSKI	シロハラゴジュウカラ
Paridae シジュウカラ科	
<i>Parus major minor</i> TEMMINCK & SCHLEGEL	シジュウカラ
<i>Parus varius varius</i> TEMMINCK & SCHLEGEL	ヤマガラ
<i>Parus atricapillus restrictus</i> HELLMAYR	コガラ

第 1 表 つづき (1)

<i>Parus ater insularis</i> HELLMAYR	ヒ ガ ラ
<i>Aegithalos caudatus japonicus</i> PRAZÁK	シマエナガ
Laniidae モズ科	
<i>Lanius bucephalus bucephalus</i> TEMMINCK & SCHLEGEL	モ ズ
<i>Lanius cristatus superciliosus</i> LATHAM	ア カ モ ズ
Bombycillidae レンジャク科	
<i>Bombycilla garrulus centralasiae</i> POLJAKOV	キレンジャク
Pycnonotidae ヒヨドリ科	
<i>Hypsipetes amaurotis hensoni</i> (STEJNEGER)	エゾヒヨドリ
Muscicapidae ヒタキ科	
<i>Muscicapa narcissina narcissina</i> TEMMINCK	キ ビ タ キ
<i>Muscicapa cyanomelana cyanomelana</i> TEMMINCK	オ オ ル リ
Sylviidae ウグイス科	
<i>Regulus regulus japonensis</i> BLAKISTON	キクイタダキ
<i>Phylloscopus tenellipes</i> SWINHOE	エゾムシクイ
<i>Phylloscopus borealis xanthodryas</i> SWINHOE	メ ボ ソ
<i>Phylloscopus occipitalis coronatus</i> (TEMMINCK & SCHLEGEL)	センダイムシクイ
<i>Cettia diphone cantans</i> (TEMMINCK & SCHLEGEL)	ウ グ イ ス
<i>Locustella fasciolata</i> (GRAY)	エゾセンニュウ
<i>Locustella lanceolata</i> (TEMMINCK)	マキノセンニュウ
<i>Acrocephalus arundinaceus orientalis</i> (TEMMINCK & SCHLEGEL)	オオヨシキリ
<i>Acrocephalus bistrigiceps</i> SWINHOE	コヨシキリ
Turdidae ツグミ科	
<i>Turdus cardis cardis</i> TEMMINCK	クロツグミ
<i>Turdus chrysolaus chrysolaus</i> TEMMINCK	ア カ ハ ラ
<i>Turdus naumanni eunomus</i> TEMMINCK	ツ グ ミ
<i>Saxicola torquatus stejnegeri</i> (PARROT)	ノ ビ タ キ
<i>Erithacus calliope calliope</i> (PALLAS)	ノ ゴ マ
Hirundinidae ツバメ科	
<i>Hirundo rustica guttularis</i> SCOPOLI	ツ バ メ
<i>Delichon uriba dasypus</i> (BONAPARTE)	イワツバメ
Apodidae アマツバメ科	
<i>Apus pacificus pacificus</i> (LATHAM)	キタアマツバメ
<i>Chaetura caudacuta caudacuta</i> (LATHAM)	ハリオアマツバメ
Alcedinidae カワセミ科	
<i>Alcedo atthis bengalensis</i> GEMELIN	カ ワ セ ミ

第 1 表 つづき (2)

	Picidae	キツツキ科	
<i>Picus canus jessoensis</i>	STEJNEGER		ヤマゲラ
<i>Dendrocopos major japonicus</i>	(SEEBOHM)		エゾアカゲラ
<i>Dendrocopos leucotos subcirris</i>	STEJNEGER		エゾオオアカゲラ
<i>Dendrocopos kizuki seebohmi</i>	(HARGITT)		エゾコゲラ
<i>Jynx torquilla japonica</i>	(BONAPARTE)		アリスイ
	Cuculidae	ホトトギス科	
<i>Cuculus canorus telephonus</i>	HEINE		カッコウ
	Strigidae	フクロウ科	
<i>Otus asio semitorques</i>	TEMMINCK & SCHLEGEL		オオコノハズク
<i>Strix uralensis japonica</i>	(CLARK)		エゾフクロウ
	Falconidae	ハヤブサ科	
<i>Falco peregrinus japonensis</i>	GMELIN		ハヤブサ
<i>Falco subbuteo subbuteo</i>	LINNÉ		チゴハヤブサ
	Accipitridae	ワシタカ科	
<i>Milvus migrans lineatus</i>	(GRAY)		トビ
	Ardeidae	サギ科	
<i>Ixobrychus sinensis sinensis</i>	(GMELIN)		ヨシゴイ
	Anatidae	ガンカモ科	
<i>Anas crecca crecca</i>	LINNÉ		コガモ
	Columbidae	ハト科	
<i>Streptopelia orientalis orientalis</i>	(LATHAM)		キジバト
	Scolopacidae	シギ科	
<i>Gallinago hardwickii</i>	(GRAY)		オオジシギ
	Charadriidae	チドリ科	
<i>Charadrius dominicus fulvus</i>	GMELIN		ムナグロ
	Rallidae	クイナ科	
<i>Rallus aquaticus indicus</i>	BLYTH		クイナ
<i>Porzana fusca erythrothorax</i>	(TEMMINCK & SCHLEGEL)		ヒクイナ
<i>Gallinula chloropus incia</i>	BLYTH		バン
<i>Fulica atra atra</i>	LINNÉ		オオバン
	Phasianidae	キジ科	
<i>Coturnix coturnix japonica</i>	TEMMINCK & SCHLEGEL		ウズラ

学名は日本鳥学会 (1958) に従った

Scientific names follow the Ornithological Society of Japan (1958).

## 観察結果および考察

### 農場の鳥類目録

農場で、1951, 1952, 1957~1961年の間に観察された鳥類は、30科74種である(第1表)。

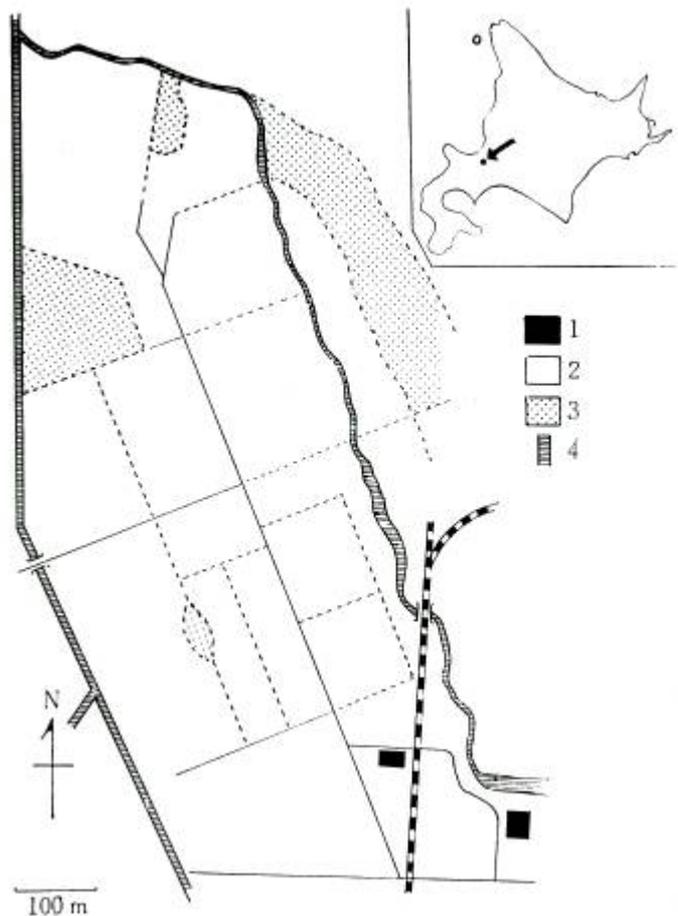
これら74種のうち、ハシブトガラス、ハシボソガラスおよびカラフトスズメの3種は留鳥で農場内で繁殖し、セグロセキレイ、キタキバシリ、シロハラゴジュウカラ、ヤマガラ、コガラ、ヒガラ、ヤマゲラ、エゾアカゲラ、エゾオオアカゲラおよびエゾコゲラの10種は、秋から早春にかけて出現する。それ以外の大部分は夏鳥または旅鳥として北海道に渡来するものであるが、後に述べるように農場内で繁殖する19種を除いては、渡りの途中一時的に農場に現われるものである。

農場は石狩平野の南部にあり、ここで観察された前記74種の鳥類の大部分は、従来の石狩平野における観察および採集記録(北海道林業試験場, 1934; 井上, 1947; 藤巻, 1959; 三島, 1959)に含まれているが、メボソとアマツバメの2種は新記録である。

### 繁殖期における農場の鳥相

前記のように観察を1~2日おきに行なった1958, 1961の両年の4~7月に、農場内で観察された鳥類は44種である。そのうち第2図に示す22種はここで繁殖していたが、ムクドリ、カラフトカワラヒワおよびモズの3種はすでに3月から見られ、残りのものは4~5月に渡来した。一方農場内で繁殖が確認されなかった鳥類は22種であった(第3図)。これらの多くは農場に短期間しかおらず、渡りの途中一時的に寄ったものであろう。このように農場における繁殖期の種類数は、夏鳥の渡来により4~5月に増加し、6月からは繁殖しないもの的一部分が渡去するため少なくなる。

1961年5月における各種の1時間当たりの観察個体数を第2, 3図の2欄目に示す。なお個体数は9回の観察の平均値である。この時期にはまだ幼鳥が見られず、すべて成鳥の個体数を示すことになる。観察個体数を見ると、カラフトスズメではやく50個体からなる群が時々現われて最も多く、ムクドリでも10~20個体からなる群が現われ、日によって個体数に差があった。ツグミは5月上旬に26個体見られたが、渡去したため次第に減少し



第1図 観察場所

1: 家屋, 2: 草地または耕地, 3: 森林, 4: 小川

Fig. 1 Map of the study area

1: house, 2: grassland or cultivated land,  
3: woodland, 4: stream.

Species	Average number of birds per hour	April	May	June	July
<i>Corvus leucillanii</i>	0.3				
<i>Corvus corone</i>	0.2				
<i>Sturnus cineraceus</i>	9.0				
<i>Sturnia sturnina</i>	0.4				
<i>Passer montanus</i>	35.0				
<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	1.0				
<i>Chloris sinica</i>	6.0				
<i>Emberiza fucata</i>	5.0				
<i>Alauda arvensis</i>	5.0				
<i>Lanius bucephalus</i>	4.0				
<i>Lanius cristatus</i>	0.7				
<i>Locustella fasciolata</i>	2.0				
<i>Acrocephalus arundinaceus</i>	2.0				
<i>Turdus chrysolais</i>	0.6				
<i>Saxicola torquatus</i>	5.0				
<i>Chaetura caudacuta</i>	0.6				
<i>Cuculus canorus</i>	0.7				
<i>Falco subbuteo</i>	0.2				
<i>Streptopelia orientalis</i>	1.0				
<i>Gallinago hardwickii</i>	0.8				
<i>Rallus aquaticus</i>	0.2				
<i>Porzana fusca</i>	0.3				

第 2 図 1958, 1961 年の 4~7 月に農場で観察された鳥類 (1) 繁殖する種  
 Fig. 2 Appearance of birds in the Farm of the Hokkaido University during the period from April to July, 1958 and 1961. (1) Breeder.

た。それ以外の種では群で現われることはなく、個体数は日によって大差なかった。これらの個体数は、MCCLURE and YOSHII (1958) が稚内のシュブント沼付近の森林、沼沢地、畑地、海岸で調査した結果と比較しても特に少ないということはない。すなわち稚内と農場とでともに観察された種について比べると、5月の1時間当たり観察個体数は、農場でハシブトガラスが少なかったが、ホオアカ、アオジ、カラフトカワラヒワ、カラフトスズメ、ムクドリ、モズ、ハクセキレイ、オオヨシキリ、ノビタキ、ヒバリは多いかまたは同程度である。

農場で繁殖する鳥類には一般に草原または森林で見られる鳥類の両方が見られる。しかし草原または森林の鳥類に関してははっきりした定義がないので、これについては農場における営巣場所と札幌付近の草地または森林で繁殖するかどうかを対応させて判断した。

農場で繁殖していた鳥類の営巣場所を、鳥のすみ環境という点から見ると、次の5つに大別されよう。すなわち、A) 家屋、B) 水辺、C) 草地、D) 灌木地、E) 喬木林である。なお畑は景観的に草地とみなし、C) に入れた。これらの区分によって各種の営巣場所を示すと第2表のようになる。

農場と比較する森林には藻岩山天然林を、草原としては手稲の泥炭草地を選んだ。藻岩山は標高 530m で札幌市の南部にあり、その北および東斜面の大部分は温帯性落葉樹の天然林である。また手稲は札幌市の西方やく 10 km のところにある。手稲の南部には手稲山があり、この山麓近くには果樹園や水田が多く、海岸近くなるにしたがい牧草地や所々に灌木のある草地となる。

Species	Average number of birds per hour	April	May	June	July
<i>Eophona personata</i>	0.1		-		
<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	0.2		—		
<i>Loxia curvirostra</i>	0.1	—			
<i>Emberiza aureola</i>	0.2		—	—	
<i>Emberiza spodocephala</i>	0.4		—		
<i>Motacilla alba</i>	0.7	—	—	—	
<i>Parus major</i>	0.4	—	—	—	
<i>Hyppipetes amaurotis</i>	0.1	—			
<i>Muscicapa narcissina</i>	0.2		—		
<i>Phylloscopus tenellipes</i>	0.1		—		
<i>Phylloscopus borealis</i>	0.2			—	—
<i>Phylloscopus occipitalis</i>	0.2		—		
<i>Cettia diphone</i>	0.6		—		
<i>Locustella lanceolata</i>					—
<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>	0.2			—	—
<i>Turdus cardis</i>	0.8		—		
<i>Turdus naumanni</i>	5.0	—	—		
<i>Erithacus calliope</i>	0.3		—		
<i>Jynx torquilla</i>	0.9		—	—	
<i>Milvus migrans</i>	0.1			—	—
<i>Gallinula chloropus</i>	0.1			—	—
<i>Coturnix coturnix</i>	0.2		—		

第 3 図 1958, 1961 年の 4~7 月に農場で観察された鳥類 (2) 繁殖しない種  
 Fig. 3 Appearance of birds in the Farm of the Hokkaido University during the period from April to July, 1958 and 1961. (2) Non-breeder

第 2 表に示すように、農場内で観察された 44 種の鳥類のうち、9 種は藻岩山天然林で、9 種が農場と藻岩山天然林で、3 種が農場で、8 種が農場と手稲の草原で、5 種が手稲の草原で繁殖していた。そのほか 2 種は 3 か所で繁殖しており、8 種は今回の観察ではこの 3 か所のいずれでも繁殖していなかった。

藻岩山天然林と農場で繁殖していた鳥類の農場での営巣場所は、主として前記の区分の喬木林である。また手稲の草原と農場で繁殖していた種の農場での営巣場所は主として水辺、草地または灌木地である。これらのことから、営巣場所として、1) 家屋を選ぶ種、2) 水辺、草地または灌木地を選ぶ種、3) 喬木林を選ぶ種があり、これらをそれぞれ 1) 人家付近の鳥類、2) 草原の鳥類、3) 森林の鳥類とすることができよう。

農場には畑、牧草地など草原状の環境があるほか、林があるため、ここで繁殖する鳥類の中にはそれぞれ草原または森林で繁殖する種も含まれている。しかし、農場で見られる鳥類のうち、藻岩山天然林と手稲の草原のいずれかで繁殖するものは 33 種いるのに対し、農場で繁殖するものは 22 種と少ない。

次に農場で繁殖する鳥類の本州における垂直分布を見た。ただしこれらのうちシメ、カラフトカワラヒワ、エゾセンニュウ、チゴハヤブサ、クイナの 5 種は北海道で繁殖し、本州以南では冬鳥であり、またカラフトスズメはわが国では北海道のみに生息するので、これらを除く。残りの 16 種は本州でも繁殖する。清棲(1952)によると、北アルプス地方においては、これら 16 種のうちハシブトガラス、ハシボソガラス、ムクドリ、コムクド

第2表 農場で観察された鳥類の繁殖場所と農場内の営巣場所 (1958, 1961年の4~7月)

A: 家屋, B: 水辺, C: 草地, D: 灌木, E: 喬木林

Table 2 Breeding locations and nesting sites of birds observed in the Farm of Hokkaido University during the period from April to July, 1958 and 1961.

A: house, B: stream and marsh, C: grassland, D: shrub, E: woodland.

species	breeding locations			nesting sites in the study area				
	Moiwa-yama	the study area	Teine	A	B	C	D	E
<i>Eophona personata</i>	○							
<i>Emberiza spodocephala</i>	○							
<i>Parus major</i>	○							
<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○							
<i>Muscicapa narcissina</i>	○							
<i>Phylloscopus occipitalis</i>	○							
<i>Cettia diphone</i>	○							
<i>Turdus cardis</i>	○							
<i>Milvus migrans</i>	○							
<i>Corvus leuillanti</i>	○	○						○
<i>Corvus corone</i>	○	○						○
<i>Sturnus cineraceus</i>	○	○		○				○
<i>Sturnia sturnina</i>	○	○						○
<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	○	○						○
<i>Chloris sinica</i>	○	○						○
<i>Locustella fasciolata</i>	○	○						○
<i>Turdus chrysolais</i>	○	○						○
<i>Streptopelia orientalis</i>	○	○						○
<i>Chaetura caudacuta</i>		○						○
<i>Falco subbuteo</i>		○						○
<i>Passer montanus</i>		○		○				
<i>Emberiza fucata</i>		○	○			○	○	
<i>Alauda arvensis</i>		○	○			○		
<i>Lanius cristatus</i>		○	○				○	○
<i>Acrocephalus arundinaceus</i>		○	○		○			
<i>Saxicola torquatus</i>		○	○			○	○	
<i>Gallinago hardwickii</i>		○	○		○	○		
<i>Rallus aquatus</i>		○	○		○			
<i>Porzana fusca</i>		○	○		○			
<i>Lanius bucephalus</i>	○	○	○				○	○
<i>Cuculus canorus</i>	○	○	○					
<i>Emberiza aureola</i>			○					
<i>Motacilla alba</i>			○					
<i>Locustella lanceolata</i>			○					
<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>			○					
<i>Coturnix coturnix</i>			○					

リ、ヒバリ、モズ、オオヨシキリ、カッコウ、キジバト、ヒクイナの 10 種が低地に生息し、ホオアカ、アカモズ、アカハラ、ノビタキ、ハリオアマツバメ、オオジンギの 6 種は標高 500m 以上の所に生息する。前記の低地に生息する種の中には標高 1,500m まで生息するものもいるが、オオヨシキリは標高 800m 以下の所に生息する。一方ノビタキは標高 1,000m 以上の高原に生息している。このように本州中部では生息地の標高が異なる鳥類が、同じ農場内で繁殖している。一般に多くの動物で、垂直分布が重ならない種が、高緯度では同じ海拔高に生息することが知られているが、今回の場合にも同様のことが観察された。

## 要 約

1951, 1952, 1957~1961 年に北大農学部付属第一農場で鳥類の観察を行ない、次の結果を得た。

1) 上記の期間に観察された鳥類は 30 科 74 種である。そのうち 22 種は農場内で繁殖するが、他の大部分の種は渡りの途中一時的に飛来するものである。

2) 農場は環境的に森林と草原とから成っており、そのためにここで繁殖する鳥類には森林の鳥と草原の鳥の両方が含まれる。

3) 本州中部で異なった海拔高に生息する種類が、同じ農場内で繁殖している。

## 引 用 文 献

- 藤巻裕蔵 1959 石狩でヘラシギを観察 野鳥 24 : 183  
北海道林業試験場 1934 野幌国有林内の動物調査書 40p.  
井上元則 1947 野鳥の世界 北海道の鳥 128 p. 玄文社  
清棲幸保 1952 日本鳥類大図鑑 I~III 917p. 講談社  
MCCLURE, H. F. and M. YOSHII 1958. An avifaunal study in northern Hokkaido, Japan. *Tori* 15 : 1-17.  
三島冬嗣 1959 北海道産鳥類夏季の小採集品について 鳥獣集報 17 : 1-16  
日本鳥学会 1958 日本鳥類目録 (改訂四版) 264p. 日本鳥学会

## Summary

Observations on birds were carried out in the Farm attached to the Hokkaido University, in the central part of Sapporo City, during 1951-1952 and 1957-1961. The area occupies about 40 hectares of grassland and cultivated land with some woodlands (Fig. 1).

A total of 74 species including 22 species of breeding birds were recorded as the avifauna in this area (Table 1, Figs. 2 and 3). The number of species was greatest during the migrating season ranging from late spring to early summer, but few in winter.

Breeding birds in this area fell into three main groups : those that prefer treetops, low limbs or forest floor as their nesting sites, those that build their nests in grasslands and shrubs, and those that nest in holes or crevices in houses (Table 2). Of the 22 breeding species, 9 were found breeding in the deciduous forest in Moiwa-yama (the altitude is between 10 and 530m), Sapporo, and belonged to the first group (Table 2). On the other hand, 8 other species were also found breeding in the grasslands and the shrubs in Teine near Sapporo, and roughly belonged to the second group. Birds that belong to the first group may be correctly called "forest birds" and, in a similar way, those of the second group "grassland birds". That is to say, "forest birds" and "grassland birds" bred in the study area. This area, however, had fewer species of breeding birds than did the deciduous forest of Moiwa-yama or the grasslands in Teine, respectively.

Of the breeding birds in this area, 16 species inhabit Honshu also. In the central part of Honshu, however, some species (*Turdus chrysolaus*, *Saxicola torquatus*, *Apus pacificus* and so on) are associated with high altitudes, others (*Alauda arvensis*, *Acrocephalus arundinaceus* and so on) with the lowlands.